

リレーエッセイ「心に残るあの句あの時」⑤

「子どものいる風景を詠む」

宿題をやらぬ子木の実ひとつくれ

去年の秋に作った拙句である。私の場合、句材は多くが子どもである。子どもたちの表情は豊かで、また、柔らかな頬や爪、目を伏せた時のまつ毛の描く曲線、甘い香りの髪、風のように清らかな歌声など、どれをとっても句作の刺激を受ける。

その刺激だが、私はちよつと手こずらせる子どもの方が、ひらめきをもらうことが多い。A君は宿題をやらない子だった。だが、叱られたものでいつも笑顔だ。ある日、宿題の代わりに私の手に握らせたものは団栗であった。怒るより呆れて笑ってしまった。補習教室では、勉強はそつちのけで「先生、オレさ、五時に起きてはざ釣りに行くんだぜ」と話しかけてきた。遅刻の多いA君が、朝一人で起きるのだと言う。驚いた。A君のおかげでまた俳句ができた。

居残りの子と鯊釣りの話する

江東区立毛利小学校講師 白石久美子

俳句指導交流会報告

月々の交流会の内容と、会で話題になった句を紹介します。



四月

俳句授業実践報告 阿部郁恵

(江東区俳句授業講師)

極楽に風あるだろうか雪柳 土田明人

春塵や右へ右へと再稼働 松本義明

五月

俳句授業実践報告 知念哲夫

(江東区俳句授業講師)

教科書の折り目確かに夏来たる 近藤孝

健やかに湯をはじく背に菖蒲の香 糸恭子

六月

俳句授業実践報告 小山正見

(日本学校俳句研究会 代表)

兄さんはリレーの選手柿若葉 大熊拓

風かおる一年生のかがみもじ 阿部郁恵

【編集後記】夏合宿では、夕食後の懇親会

でも俳句を楽しんだ。ある研究会員の提案による「俳句遊び」だ。天声人語から五音と七音の言葉拾ってきて、そこに自分で夏の季語を合わせて俳句を完成させる。いくつか紹介する。①(日焼けして)(形のくずれた(志賀直哉)②(尻の下)なんともいやな)かたつむり。()が天声人語からの言葉でへ)が、自分で取り合わせた季語である。次に国語教科書から同様のルールで俳句を作る。苦戦の末にできた拙句はこれ。(友だちと)屋根にはしごを(二重虹)。できた俳句は、一対一の対戦形式で出来を競った。俳句を作っている時の先生方の笑顔たるや。「この人たちはつくづく俳句が好きなのだ」と愉快な気分になった。(白石)

【日本学校俳句研究会】

<http://gakkouhaiku.sitemix.jp/>

連絡先 江東区教育委員会学校支援課

小山正見 oyamasami@gmail.com

学校俳句研究⑨ 発行日平成二十七年十月三日/日本学校俳句研究会

◆代表☆小山正見 ◆編集者☆阿部郁恵 白石久美子 山本新 ◆イラスト 瀬在恵里

学校俳句研究 No.9

☆日本学校俳句研究会☆会報 平成27年10月

子どもの感性が輝く俳句を

日本学校俳句研究会 相談役 知念哲夫

俳句は、学習指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質事項」で、「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら音読や暗唱をすること」と中学年の内容として取り上げられている。なお、「解説」には、「短歌や俳句を自分でも作ってみたいという気持ちを持つように指導することも大切である。実際に作ってみることで、よさを実感し、音読することの意義を深く理解することになる。」とされており、中学年からの創作指導を勧めている。これを踏まえ、教科書では三年生で、芭蕉、蕪村、一茶などの古典的な句を掲載している。俳句との初めての出会いが、理解しにくい文語調、わびさびの世界を内容とする作品でいいのかという疑問がある。

本格的な創作指導は、高学年の「書くこと」の領域から登場する。教科書五社がそれぞれ工夫を凝らした内容を掲載している。三社が「句会」を積極的に取り上げている。限られた時間の中でクラス全員の作品が鑑賞でき、認め合い、高め合えるコミュニケーションツールとしての「句会」がしっかり取り上げられていることは、意義あることと思える。イメージマップや穴埋め俳句、助詞への着目など、より子どもたちが意欲的に創作できるような技法が紹介されている。ミニ歳時記を付録に付いたり、「季節のことば」のような季節ごとのコラム的教材で季語を紹介したりしている。子どもの俳句が掲載されているが、季重なりの句、季語の説明で終わっている句、原因結果の報告になっている句などが多く、質のばらつきが見られる。感動・発見のある诗情豊かな俳句の創作活動をどう展開するか、研究と実践を積み重ねていきたいものである。

(江東区俳句授業講師、元足立区立鹿浜第一小学校教諭)



「子どもが輝く・どの子ども輝く」それが俳句の力。私たち日本学校俳句研究会は、右の言葉を念頭に実践交流を重ねています。

第十三回 学校俳句交流会報告

平成26年12月6日

【俳人 長谷川權氏 講演】

長谷川權氏は、NPO法人きこさい代表、朝日新聞俳壇選者です。

長谷川氏は、今の教育は働ける人、稼げる人を育てる教育だと言います。「すると老



後は余生であり、子どもは予備軍になってしまう。これは経済効率的な人生観です。そうではなく、それぞれの世代を充実させるという考え方が大事になってくる。そのために教養が必要となるのです」と俳句などの文学の必要性を語りました。

また、長谷川氏は、子どもたちと俳句作りをする際「季語を入れるのは俳句の約束だから」とは言わないそうです。「日本に四季があるのはなぜだろう。地軸が傾いているからだね。季語を入れることで、宇

宙の中の地球の位置、自分の場所をはっきりさせることができる。宇宙とつながることができると、理由を説明するそうです。

ご自身の「古池論」(芭蕉は蛙の飛びこむ音を聞いて、古池を心の世界に見つけた)にも触れました。「耳をすませて、心に届く音を聞くことが大事。そのためには、いかに子どもの想像力をふくらませてやれるかがポイントになる」と語りました。

【葛飾区立木根川小 木原小百合先生】

～初めての俳句指導～

教師二年目で一年生を受け持った木原先生。ひらがなを覚えた九月の「あさがお」俳句に始まり、三月の「進級」俳句までの流れを報告しました。

テストや課題が早く終わった子どもに取り組ませたり、昔遊びを教えに来てくれた地域の方へのお礼に俳句を作ったり…。観察俳句などの提案もありました。



第十四回 学校俳句交流会報告

平成27年6月27日

【墨田区立小梅小 堀口友紀先生】

～学級が変わる、学校が変わる～

俳句の良さは、簡単に手軽に作ることができる、いろいろなことに興味関心を広げることができること、と話しました。堀口先生は、様々な俳句実践の例を集め「TTP」Ⅱ「徹底的にパクること」を行っています。先行実践の有効活用です。堀口先生は日頃TTPしている具体例を紹介しました。

【知念哲夫(俳号哲庵)先生】

～哲庵の俳諧老人日記・六月の巻～

哲庵先生は小学校を退職後、江東区で俳句指導の専任講師として活躍しています。哲庵先生の座右の句は飯田龍太の(どの子にも涼しく風の吹く日かな)です。俳句指導ではいつも全員にスポットライトを当てる指導スタイルが好評です。

六月の様々な俳句を例に俳句作り、俳句鑑賞、そして俳句指導の心とノウハウを分かりやすく教えてくれました。

夏期勉強吟行会報告

平成27年7月25日

第四回夏合宿報告

(平成27年8月15〜17日 於秩父)

恒例の夏期吟行会。今回の舞台は、深川近辺です。門前仲町駅に集まったのは九名。入念な事前準備のお陰で、深川不動尊↓富岡八幡宮↓そして、今や「下町の代官山」と言われる話題の清澄白河散策と、皆でわいわいと話をしながら、あつという間に時間が過ぎていきます。

句会の会場は、ジャズ喫茶『隠れや』でした。ランドピアノのある落ち着いた空間を贅沢に貸し切り、持ち寄りのお菓子をつまみながら、いつもと違った雰囲気での句会となりました。最高得点句は以下の二句です。

近寄れば護摩の炎の涼しさよ 小山正見

カ石五十五貫目蟬時雨

山本新

小山代表と山本幹事長の貫禄に、一同更なる修業の意欲をもちました。一点のみ用意された優勝賞品獲得のための「じゃんけん」でも、二人の素敵な表情が会場に溢れていました。

(江東区立第二亀戸小学校 上澤篤司)

講師は本研究会会員の四名。それぞれが積み上げてきたノウハウを、会員に還元する形で講義が行なわれました。

★「教科書掲載俳句の課題」知念哲夫先生
★「子どもの俳句への的確な選評の必要性」と推敲の方法

江東区俳句授業講師・高橋博夫先生

★「続ける俳句指導・中級編」

埼玉県立所沢高校・山本純人先生

★「俳句でふるさとをどう詠むか」

足立区立千寿小学校・山本新先生

(参加した先生方の声)

「流行の歌を聴いて俳句を発想するゲームは指導にも使えるし、自分自身も楽しんで足りない部分が多かった」「俳句指導において知らない部分が多かった」「句作において知らない言葉が多く、そのシャワーを浴びることは刺激的だった」「できない子の気持ちがあわかった。できなくても頑張ったことを見つけてあげたい」。

毎月の勉強句会のスタイルが変わります

①俳句指導の実践例を紹介

「俳句指導はどう行ったらいいの?」「どんな俳句がいい句?」「アドバイスの仕方?」そんな現場の悩みや相談に応える実践報告やQ&Aの時間を取り入れます。

②俳句を学ぶ句会スタイルへ

参加者の俳句を「この句について聞いてみたい」「この句を話題にしたい」そんな観点で選ぶようにします。そのことで、いい俳句を選ぶだけでなく、俳句の理解を深めるための句会になります。

今までの点盛りの句会スタイルから、俳句や俳句指導を学ぶための勉強会の時間に大きく舵を切ります。

第十五回学校俳句交流会のご案内

★12月6日(日) 13時半〜17時

★江東区立八名川小学校

★メイン講師 堀本裕樹氏

堀本氏は、あのピース又吉さんの俳句の師匠で『芸人と俳人』(お二人の共著)を出されている、今、活躍中の若手俳人です。